只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

ウスタビガ

（学名：*Rhodinia fugax*）　（写真・文 緒勝祐太郎）

【鱗翅目ヤママユガ科】

▲ 黄色を主とした色彩が美しいウスタビガの雌

▲ 深紅に染まった雄の翅は、色づいた樹々の葉とともに晩秋の雰囲気をかもし出す

山々が雪化粧し、山麓のブナ林が紅く染まる頃、生きものたちは厳しい冬に備えるため気配を消していきます。そんな中、晩秋の里山ではこの時期にのみ成虫が活動するウスタビガという蛾が見られます。

ウスタビガは翅（はね）を広げると１０cmほどになる大型の蛾で、成虫は秋も深まった１０月から１１月にかけて現れます。翅の色は雌雄（しゆう）で異なり、雌は黄色の下地に褐色の帯が入りますが、雄は全体が橙（だいだい）色あるいは黄褐色に染まります。寒冷地では、写真のような焦げ茶色の雄（黒化型）が稀に現れることがあり、雌に比べて色にバリエーションがあります。また、雌雄とも各翅の中央に半透明の丸い紋（もん）があることが特徴です。このような色鮮やかな体は一見目立ちますが、紅葉した森の中では見事なまでに風景に溶け込みます。

ウスタビガは、幼虫がコナラやクリ、サクラ類、カエデ科など様々な広葉樹の葉を旺盛に食べますが、成虫は口が退化しているため、羽化してから死ぬまで何も食べません。寿命も一週間程度と短くその間に交尾・産卵を済ませ、はかない一生を終えるのです。里山に初雪の便りが届く頃には、ウスタビガも姿を消し、冬枯れの森は静寂に包まれていきます。

只見町ブナセンターから企画展のお知らせ

只見町ブナセンターでは、２０２１年１２月４日(土)～２０２２年４月４日(月)まで、「ただみ・ブナと川のミュージアム」の２階ギャラリーにて企画展「只見の猛禽類」を開催いたします。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。

企画展「只見の猛禽類」
会　期：２０２１年１２月４日(土)～２０２２年４月４日(月)
場　所：ただみ・ブナと川のミュージアム　２階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎ 0241(82)5220